

平成26年10月30日 北九州市立守恒中学校 校長 大坪 和廣

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、中学校3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。 学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

本校の正答率は、全科目で全国平均を上回る状況にあります。しかし、苦手な分野や家庭学習・生活習慣で改善すべき項目もあります。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

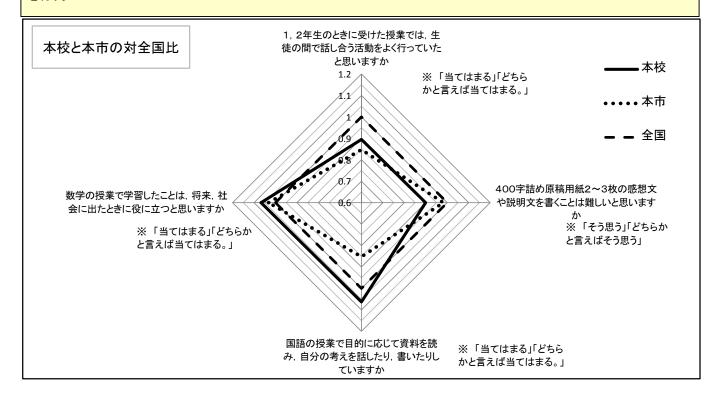
1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均正答率を 上回っている。	・全体的には全国平均正答率を上回っており、言語知識理解は基礎ができている。 ・文脈に即して漢字を正しく読むことに課題が見られる。
国語B	全国平均正答率を 上回っている。	・全国平均正答率を大きく上回っており、書く能力に優れている。 ・複数の資料を比較して、要旨を捉える問題に課題が見られる。
数学A	全国平均正答率を 上回っている。	・全国平均正答率を大きく上回っており、基礎基本の定着度は高い。 ・2つの図形の関係を捉えることに課題が見られる。
数学B	全国平均正答率を 上回っている。	・全国平均正答率を大きく上回っており、応用問題も粘り強く解いている。 ・判断の理由を説明する問題に課題が見られる。

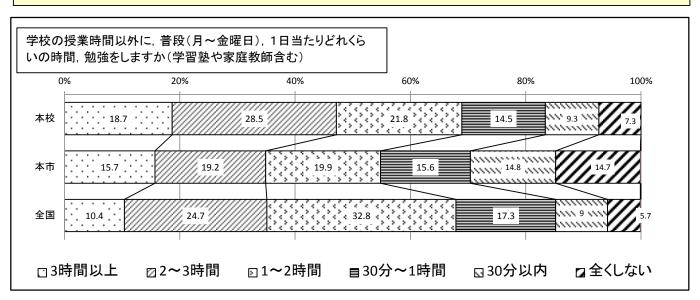
② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

- ・「生徒間の話し合い活動をよく行っている」と答えた生徒は、全国平均を下回るが、その差が小さくなっている。今後も、各教 科で指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置づけた授業を行う。
- ・文章に書くことに抵抗感をもっている生徒が減少傾向にある。今後も、自分で考えたことを説明させたり、書かせたりする授業を行う。



2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

- ① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析
 - ・2時間以上家庭学習をしている生徒の割合は、全国平均を上回っている。
 - ・家で宿題をする生徒は多いが、復習する生徒は全国平均を下回っている。授業の復習をする習慣を身につけさせたい。



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・テレビ等の接触時間は、全国平均よりも少ない。
- ・テレビゲーム等の時間も、全国平均よりも少ない。
- ・自己肯定感や将来の夢や目標をもっている生徒は、全国平均よりも高い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施。
 - ・学力向上強化月間(国、数、英)、定期考査の予想問題の取組などを全校一斉に実施した。
 - ・特設時間の取組内容計画表作成(学力向上推進委員会・各学年)を作成した。
 - ・全国学力調査問題やCRTアシストシートのプリントを準備した。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用する力を高めるワークの活用。
 - ・アシストシートと過去問をプリントして、冬休み・春休みの課題の中に取り入れた。
 - ・「春休みの課題考査」を実施し、過去問題と似た問題を入れた。
- ○「言語活動」や「書く」ことを習慣化する。
 - ・授業で「自分の考えをまとめ、意見交換する時間」を取り入れる。
 - ・漢字練習や「一日のふりかえり」を書くなど、漢字を書いて覚えるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎「毎日家庭学習をする習慣」の確立
 - •「自主学習」として、漢字、計算、英単語、英文の練習をする。
 - ・家庭学習時間、ノーゲーム、ノーテレビデーの設定をする。
 - ・「学習の手引き」「授業の五ケ条」の作成・実施をする。
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用 ※配布及びデータ配信済み
 - ・家庭学習マイスター賞へ応募する。
 - ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用する。
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校便り、学校HPで知らせる。